

第4章 かわさき教育プラン 第3期実施計画 令和7年度点検・評価シート

基本政策Ⅰ 人間としての在り方生き方の軸をつくる

政策
目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための資質・能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な課題

○社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促すため、各学校の実情に応じて、全ての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系統的に育てる教育が求められています。

主な取組成果

- 「キャリア在り方生き方教育・進路指導担当者研修会」を年間3回実施し、訪問研修等を113回実施しました。また、「みらいねっと～キャリア在り方生き方教育全市交流会～」を実施し、市制100周年を契機にした学びを、市立学校の「キャリア在り方生き方教育」の充実につなげることができました。「キャリア在り方生き方ノート」「キャリア・パスポート」の活用については、担当者研修会において好事例や令和6年度に作成した職員研修用動画について周知啓発することで教職員の理解を深めました。

教育改革推進会議における意見内容

- これからの時代は、明確に言語化できる目標や知識ほど、AIに代替される可能性が高まると考えられます。子ども自身の内側から湧き出る関心、意味づけ、主体的な取組を重視する必要があります。国の評価や到達目標だけで子どもを測るのではなく、一人ひとりの伸びや頑張りを丁寧に記録し、認める評価の在り方を大切にすべきです。
- 自己肯定感の上昇は、学年ごとの積み重ねや子ども一人ひとりを見守る学校の取組が背景にあると思います。
学校に行くことが難しい子どもにとっても、GIGA端末等に蓄積された学びの記録や学校とのつながりが、自分を見てもらっているという実感につながっていると感じます。AI化や価値観の多様化が進む中、正解のない問いに自分なりの答えを出せる「軸」や内発的動機を育む教育に期待します。
- 将来への意識やチャレンジ精神が中学生で低下する傾向について、現在の自己肯定感とは別に、未来が明るいと感じられるかが関係しており、教員以外の大人や地域・企業との出会いを増やすことが重要だと思います。

今後の取組の方向性

- 学校の特色を生かし、今日的な教育課題に対応したカリキュラム・マネジメントに向けて、具体性のある研修を行っていくほか、「キャリア在り方生き方ノート」「キャリア・パスポート」の効果的な活用方法を発信し、活用の促進に取り組みます。また、リーフレット配布等による保護者等への理解促進を継続していきます。

参考指標

指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
自己肯定感	「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	79.1%	81.7%	84.4%	85.3%	88.4%	83.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
		中3	76.4%	79.3%	79.8%	83.2%	85.7%	77.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
将来に関する意識	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	77.3%	77.7%	79.9%	80.3%	82.4%	90.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
		中3	65.2%	64.0%	66.1%	66.3%	67.4%	75.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
自己有用感	「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	96.0%	95.7%	96.3%	96.9%	97.4%	97.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
		中3	94.6%	93.9%	94.6%	95.6%	96.8%	95.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
チャレンジ精神	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	73.0%	74.7%	— ※	—	-	82.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
		中3	66.0%	67.1%	— ※	—	-	75.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
チャレンジ精神 【第3期から設定】	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】	小5	—	78.5%	74.9%	75.0%	74.1%	82.0% 以上
			—					
		中2	—	66.0%	65.6%	65.7%	66.3%	75.0% 以上
			—					
共生・協働の精神	「学級みんなで協力して何かをやりを遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	—	—	—	—	-	— ※ ※
			—					
		中3	—	—	—	—	-	— ※ ※
			—					
社会参画に関する意識	「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	54.2%	55.6%	— ※	—	-	56.0% 以上
			(R3(2021)年度)					
		中3	39.5%	35.3%	— ※	—	-	40.0% 以上
			(R3(2021)年度)					

※令和5（2023）年度以降の出典元の調査において設問がなくなったため、実績値の記載はありません。
 ※※平成30（2018）年度以降の出典元の調査において設問がなくなったため、目標値の記載はありません。